

LAN アクキュライザーの活用(7)

－CD と配信音源再生(1)－

1. 始めに

前報(6)まではアナログと配信音源再生の直接比較を実施してきました。

LAN アクキュライザーの導入により配信音源のレベルが上がってきたことで、今回から CD と配信音源再生の直接比較を実施していきます。

2. LAN アクキュライザーLACU-1 の試聴計画

今回試聴するのはバッハのミサ曲口短調です。

CD

ARCHIV POCA-2009/10

カール・リヒター指揮ミュンヘンバッハ管弦楽団

STAGE+

カール・リヒター指揮ミュンヘンバッハ管弦楽団

3. LAN アクキュライザーLACU-1 の試聴結果

上記の比較は、[スピーカーアクキュライザーの導入\(19\)](#)で報告していますが、この時点からの変更は前報(1)で述べたとおりです。

CD の再生は EMT981 により行います。

CD の再生では、合唱の分離に問題は残りますが、ソリストの歌唱や古楽器の質感は、CD らしからぬ滑らかさがあります。例えば、フルートトラヴェルソと通奏低音を伴ったソプラノとテノールの 2 重唱などは、自然な印象です。これらは、スピーカーアクキュライザーの位置変更やケーブルチューナーの追加の効果が出ているものと言えます。

STAGE+再生では、同様に合唱の分離に問題は残りますが、ソリストの歌唱や古楽器の質感は、配信のデジタル音源らしからぬ滑らかさがあります。例えば、フルートトラヴェルソと通奏低音を伴ったソプラノとテノールの 2 重唱などは、CD と同様自然な印象です。これらは、スピーカーアクキュライザーの位置変更やケーブルチューナーの追加の効果に加えて、LAN アクキュライザーを 2 ケ所に適用した効果が出ているものと言えます。

EMT981 は、現在手持ちの CD 再生システム 4 系統のうち、もっとも音楽的表現力の点で好ましいものですが、この EMT981 による CD 再生と STAGE+の配信がほとんど同等と言えるレベルになったことは驚きを禁じ得ません。

4. まとめ

CD と STAGE+双方に関係する変更の効果により、ともにグレードがあがり、STAGE+の配信音源の再生では、2ヶ所への LAN アクライザーの装着の効果でほとんど CD と同様のレベルに近づいた印象です。

以上